『幼稚園の現場から』

Ⅷ・どうする保護者会？

原町幼稚園（静岡県沼津市）　園長　鶴谷主一

◆ＰＴＡ（parent・teacher・association）

朝日新聞１月15日と22日の２週連載で「どうするＰＴＡ」というテーマで記事が掲載されました。

反響も大きかったようで、２月にはその「反響編」が掲載されていました。

内容をまとめると･･･

時代の変化とともに、共働き世帯も増えＰＴＡへの参加率が悪くなってきた。本来「任意加入」が原則なのに、加入することが暗黙の了解でずっと続いてきて、その歪みも生じ始めている。たとえば、役員の選出が難航したり、ＰＴＡ活動に参加しない人を陰で非難したり、形骸化した活動に目的意識があいまいになっていたり、会費の未払いがあったりといった問題です。

いよいよそれを見過ごせなくなり、まずは「任意加入」を周知していこうという動き、同時に任意加入でも入会してもらえる「組織の見直し」が、各地の小中学校で少しずつ始まったという話です。

反響編では、「現状ではいいと思っていないが、変えるのは難しい」という声がある一方で、「それでも変えていきたい」「こうした（変革の）動きが広がってほしい」といった声も多数寄せられたそうです。

年度が変わる時期の頭の痛い問題。幼稚園でも例外ではないことが多いようです。

◆さて、幼稚園では

ＰＴＡは、親と教師が組織します。この形態を採用している幼稚園は主に公立に多いのではないでしょうか。私立幼稚園は「保護者会」「父母の会」等の名称を使う園が多く、教員はこの組織運営に関わることは多くなく、園長など管理職が入って、園独自に運営していくことが多いように思います。

以下、「保護者会」と言いますが、活動内容は大まかに次のようなことがあげられます。

お手伝いのお父さんに手伝ってもらってもちつき！

①行事のお手伝い

運動会の種目の出し入れから発表会の衣装作り、卒園式の謝恩会など

②行事以外の教育活動のおてつだい

図書の貸出しや、園内の掃除など

③保護者会主催の行事

バザーなど主催行事を園と連携して行うなど

④組織の運営

保護者会議の開催、会費の管理、保護者対象の研修会や親睦会の計画運営、規約の設定など

⑤対外的なＰＴＡ活動

幼稚園協会などの保護者代表として会議等に出席、交通安全や消防など地域の組織への参加など

加えて、会長や委員長など役がつくと、次の悩みがついてくることが多いようです。

⑥園とのパイプ役や運営上のトラブル

役員以外の保護者から上がってきた、園に対する苦情や疑問を受けて（言える場合は）園に具申する。これを言えずに板挟みになって悩む方も多いようです。

保護者会内での采配や、計画がうまくいかなかった時のトラブルや苦情があがってくることや、いろいろな面で決定をしていかなくてはいけないことも、重圧だという声を聞くことが多いです。

行事の挨拶をさせられるのが苦手だと言う方も意外といます。

　ザッとあげただけでも、役員を引き受けると悩ましい問題があるのに、幼稚園が前例踏襲を良しとして保護者会に依存していることも多く、次のような「いきすぎだなあ～」と思われるような実話を耳にしたこともあります。

▼会長を引き受けたために園に出る回数が多く、仕事を辞めざるを得なかった。

▼会長は、子どもが卒園しても翌年は次年度役員のアドバイザーとして、役員活動に参加する。

▼卒園式の謝恩会では、余興の段取りまで親がやる。

▼発表会の裏方や、準備、片付けを全て保護者会が受け持つ。

よくこれで続いているなあ、と思うような保護者会運営をしている幼稚園も結構あるのに、園長の間では**「役員がなかなか決まらいんだ、頭が痛いよ・・・」**という声もよく聞きます。

役員のお母さんに蒸したもち米を見せてもらってます＿

　保護者会自体を廃止した。という園も最近増えてきました。役員選出や保護者会との調整の煩わしさが無くなり、スッキリしたという話です。親サイドも子どもを園に預けて教育してくれれば世話無しでいい、と割り切った考え方です。

　逆に保護者会が活発に活動し、サークル活動も活発という園もあります。私立幼稚園は、園長・理事長の考え如何で方針が決まってくるので、保護者会も多種多様なのでしょう。

◆原町幼稚園の保護者会改革

　さて、前置きが長くなりましたが、

私どもの取り組みについてご紹介します。

原町幼稚園では、10年前の2002年、私が園長になったのをきっかけに保護者会も改革を始めました。それから現在まで役員選出の苦労はありません。しかし、昨年度は保護者会にもちょっとした亀裂が生じて見直しを行いました。その経緯をお知らせすることで、幼稚園と保護者会との関係を考える材料にして頂けたら良いな、と思います。

◆まずは、園長の考えをストレートに伝えました。

※昨年2011年１月、次年度の役員選出前に発行した園便りから引用

「新しい保護者会」を考えましょう

時代は移り変わってきています。「保護者会を廃止したら運営もラクだよ」という幼稚園･･保育園もじわじわと増えてきました。保護者会を廃止したら入園児が増えたというケースも聞きました。確かに保護者会は面倒な面もあるでしょう。しかし、「孤育て」という言葉も生まれてしまった日本。人と人とのつながりが希薄になってきている現代、保護者会という親の居場所まで消し去ることに幼稚園としての社会的責任は？というところまで思い巡らしてきました。

昔の話ですが、原町幼稚園の保護者会は「母の会」という名称で活動をしておりました。「交通安全母の会」という対外的なＰＴＡ活動から、卒園式の謝恩会の企画運営まで、幅広く仕事内容も多かったと記憶しています。

毎年役員のなり手がなく、皆がくじを引く様子を見て、私は「**役員はボランティア活動、嫌々やって頂くようなら無くて結構、くじ引きで役員を決めるのはやめて**」。という意味の発言をいたしました。皆が負担に思うようなら、行事の規模を職員でできる範囲にすれば良いし、大きい行事はその都度お手伝いを募っても賄えるだろうという見通しがあったからです。

しかし当時の保護者の皆さんは私の意見に同調することなく、名称を「原町幼稚園保護者会」と改めて役員活動を存続させてくれました。「**幼稚園に役員活動は必要だ**」という意思表示でした。それ以来、保護者会の役員はくじ引きをすることなく、毎年自主的に気持ちよく引き受けて頂けていることを、心より感謝しています。そして思い直しています。『**やはり今の幼稚園活動を維持していくためには、保護者の皆さんの力は必要です！**』

園の行事を運営する上ではもちろんのこと、保護者同士のコミュニケーション、保護者と先生のパイプ役として役員さんは重要な役割を果たしてくれていることを実感しているからです。

図書委員さんやバザー委員さん、スポットでお手伝い頂いている方など、それぞれの立場で支えて下さっている方もたくさんいらっしゃいます。「**できるところはやりますよ」というお互い様感覚**で引き受けて頂いていることにも、本当に感謝しています。

今年も、新しい役員さんを選出する時期が来ました。新しい役員活動が、合理的に意欲的に楽しく行えるように、園との連携を強化し、新しい時代にマッチした保護者会活動の見直しをしようと考えました。

まずは、現状を把握するところからスタートします。

〇以前と状況が変わったこと、役員さんが困っていたことは、主に次のようなことです。

・役員の中にも仕事（育児、介護）を持っている方が増え、打合せの時間を作るのが難しくなった。

・活動時も、全員が出席できないときがあり、少人数で仕事を回すのに苦労した。

・役員の仕事内容が明確になっていないので、何をしていいのか、とまどった。

・活動の目的がいまいちはっきりせず、何のための仕事なのかわかって仕事をしていきたい。

〇今までの役員さん方から聞いた「役員やって良かった～」という声です。

・友だち付き合いができて、小学校に行ってからも仲の良いつき合いができて心強いです。

・子どもたちの活動、笑顔を身近で見られた、サポートできた。（餅つきなどは子どもと一緒に行えた）

・行事をやりとげた達成感を味わえた。

・幼稚園の教育活動のことがよくわかり、先生と話す機会も増えた。

〇ささやかな特典について。（隠していた訳ではないんですが、キチンと公表してこなかったこと）

・役員活動の場合は、預かり保育は無料でお預かりになります。

・年長役員は音楽会のお手伝いをしつつ、最前列で観ることができます。

・年長役員は卒園式で役員席（最前列）で参加することができます。

・ボードゲームの貸し出しは図書委員と役員に限定で行います。

・一年間続けて頂いた役員さんには、園からささやかなお礼を差し上げます。

特典が役員に立候補する動機になるとは考えていません。これと引き換えにするほどラクな仕事ではないし、だいいち気持ちが続かないと思います。私たち教員もそうですが、勤務状況と待遇を単に天秤にかけてみたらとてもつり合いがとれているようには見えない。でも、子どもたちが育っていく姿をみたり、子どもたちとふれあうこと自体が大きな喜びや達成感につながり、ラクではないけど後から喜びが来ることがわかっているから意欲的に仕事を続けていけるのです。今まで役員を引き受けて下さった皆さんも同じ思いだと思います。

なので「特典」は子どもたちのために、一年間役員という責任を背負って一生懸命頑張って下さる役員さんへの、ほんとにささやかなお礼の気持ちなのです。

〇次に、保護者会役員の活動の内容をお知らせします。

時期	主な活動＆サポート	内容と活動の意味
１学期	顔合わせのお茶会企画運営 研修会のおてつだい 納涼祭り模擬店おてつだい	クラスの皆さんが仲良く１年間過ごすためのコミュニケーション。 園主催のゲームあそびの研修会のお手伝い。（ゲームに詳しくなれるメリットがあります）子どもたちのお楽しみを模擬店で盛り上げます！
２学期	レクや研修の企画運営 運動会の種目係と片付け はらっこバザール 音楽会サポート もちつきおてつだい	ボーリング大会、エアロビ教室などを企画しました。 運動会当日がスムーズに行えるように、また道具などが大切に毎年キレイに片付けられることで長持ちし、必要な時に使えるようになります。 バザールでは子どもたちのお楽しみを模擬店でバックアップ。 音楽会では年少組はリハーサル付き添い、年中組はドア、年長組は当日の園児席係。 餅つきはタイヘンだけど楽しい行事、子どもたちの様子も見られます。

３学期	お茶会の企画運営 アルバムづくり	子どもの成長をお互いに喜び、１年の思い出などを語りあう場を作ります。先生への感謝の気持ちを形にするアルバム作り。先生にとっては一生の宝物になります。
その他	保護者会総会と保護者会 対外的活動	園と連携して、年３回の保護者会の運営を行ったり、受付のお手伝いをします。市や県の幼稚園協会団体の会合に出席できる場合出席します。

〇ひとつ提案します

「役員」はちょっと堅苦しいという意見もあり、もっと親しみやすい名前に変えようということで、いくつか案を出しますので皆さんの投票で決めましょう。ついでに保護者会へのご意見等をお寄せ頂けますでしょうか。名称の変更は、名前を変えたから何かが変わるのではなく、名前を変えて私たちの頭を柔軟にして「新しいやり方を生み出していきましょうよ」という意思表示です。

（以上、園便りからの引用です）

年長さんは一人でもだいじょうぶ！

◆そして、次年度の役員も無事決まり、保護者会は次のように変化しました。

※役員選出後に発行した園便りから引用

新しい保護者会☆役員さんは「はらっこマミー」

〇はらっこマミーの役割について再確認！

原町幼稚園保護者会規約

第４条（目的）　本会は幼稚園と保護者とが常に連絡しあい、原町幼稚園に通う子どもたちのために協力して教育の振興と保護者間の交流をはかることを目的とする。

第５条（事業）　本会は第四条の目的達成のために次の事業を行う。

一、園の諸行事の援助及び参加。

二、保護者の研修、交流会及び保護者会活動の報告。

三、施設整備、拡充のための援助、及び教材の援助。

四、その他、本会の目的達成に必要となる事業。

ちょっと固い保護者会規約の文章を言い換えると・・・

●子どもたちにより良い経験をさせるために、園と協力し、教員をサポートし、保護者同士の交流や研修、そして余力があれば施設や教材のための援助もしましょう！･･･ということです。

○「**保護者会**」とは原町幼稚園に在籍する保護者全員のことを指します。

○来年度から役員を「**はらっこマミー**」と呼ぶことにします。お父さんは、はらっこダディー？

○**図書委員**や**バザー委員**、**手芸部**など保護者同士のサークル活動をして下さるグループは変更なし。

○運動会や園外保育など、その都度行事のお手伝いに手を上げて下さる方も募集します。

まずは、これでやってみましょう！手芸部のように趣味を生かした新規グループの誕生も歓迎です！

（事前に園長・主任にご相談を！）

さて、肝心の具体案については、何人かの方から頂いたご意見を元に次のように考えていますが、

詳細や軌道修正も今後の活動を進めつつやっていきます。

①組織構成をはっきりさせ、指示伝達をハッキリと全員に。

②園の依頼により行う活動、自主的に行う活動を明確にし、最終決定は園長、主任が行う。

③はらっこマミーの打合せは、メンバー構成に合わせる。（たとえば午後２時～４時）

④活動内容については、はらっこマミーメンバーで随時検討し、より良く変化させていく。

毎年、園から「これだけはやって頂きたい」というお願いがありますので、恒例で行う活動は固定でありますが、「こうしなければならない！」というものではなく、その年に集まったマミーさんの考え方や子育てやお仕事の状況に合わせて、無理なく「その年のやり方」を考えて頂いても良いと思います。園の活動もその意見を聞きながら修正していくことも可能です。あくまでも「**子どもたちにとって意味のある活動をしていく**」**ことが目的です。**

（以上、園便りからの引用です）

年長さんは自分の食べるお餅を調理します。

砂糖醤油っておいしいね！

◆まとめ

キーワードは、

『活動ありき、ではなく人ありき』です。

園と保護者の付き合いは、人と人との付き合いです、だから保護者会の規約を守ったり、前年通りということにこだわらず、集まった人たちのやりやすい、でも園のやってほしいことも伝えていくというスタンスで臨むのが良いのではないかと考えています。

餅つきが終わって、ホッと一息

原町幼稚園の「はらっこマミー」の皆さん！

こうするのが慣例だから、決まりだから、という理由で「任意加入の団体」の人々は動きたくありません。

幼稚園の保護者は**「子どものために何かしたい！」**という思いを持っています。その気持ちが活動によって達成出来るように保護者会を運営していくことが肝要ですし、そのためには、園長もしくはある程度の決定権を持った職員が一緒に活動し、会の運営をコントロールしていくことが必要だと考えています。

保護者会を園の単なるお手伝い組織と考えずに、より良い活動をするためのパートナーとして常に声を聞くことにより、世間と乖離しがちな私たちの感覚を修正したり、園の教育方針を、活動のたびに保護者に伝えることにより、園の教育活動への理解も深まり園を支えてくれる貴重なサポーターになると思います。

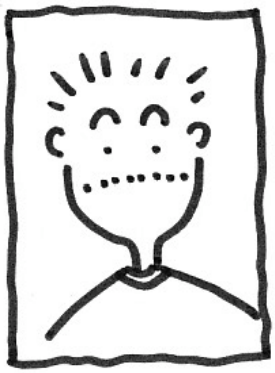
「面倒な保護者会なんて廃止だ！」なんていう園が今後増えませんように！

学校法人松濤学園　原町幼稚園

園長　鶴谷主一

幼稚園歴28年（内園長歴9年）

http://www.haramachi-ki.jp



ツルヤシュイチ